

教育研究業績書		
令和 4 年 3 月 31 日		
氏名 藤原 牧子		
研究分野	研究内容のキーワード	
保育学 幼児教育学 子ども家庭福祉	保育環境 保育方法 子育て環境 子育て家庭 子育て支援	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 保育内容総論	平成28年4月～ 平成30年3月	「こども研究」と題し、学生が子どもに関わることで興味を持てるトピックについて調べ発表する実践を行った。結果、子ども食堂、赤ちゃんが泣き止む絵本「もいもい」、安全なベビーカー、子どもにやさしい石鹸など授業では触れない事柄を学生全員が幅広く調べ発表した。主体的に調べまとめる力、他者に向けて発表する力を養うことができた。
	令和元年5月～ 令和元年8月	子どもの言葉の発達から絵本について学びを深めた。学生が「子どものころ好きだった絵本」「勧めたい絵本」を5冊選び、絵と文章で紹介する実践を行った。教員も知らなかった絵本や是非読みたくなる絵本が次々紹介された。其々の学生が、絵本の紹介（発表）をした後、皆の前で1冊読み聞かせをする実践も行った。子どもが好きになる絵本について、学生が考えるきっかけとなった。また、多くの人の前で、絵本の読み聞かせを実践することができた。
保育方法論	平成28年4月～ 平成30年8月	保育活動の中で行事を取り上げ、「子どもにどのように伝え、参加させるか」をテーマにアクティブラーニングをおこなった。グループ形態で調べ学習に取り組ませた。学生が考えた子どもへの伝え方は、様々で模造紙やペープサート、紙芝居等の方法を用い、子どもの活動としては製作、音楽遊び、リズム遊びなど学生が主体的に考える力を養うことができた。それを踏まえ、教育実習や保育実習で実践できるよう指導し、実践に向けての示唆を与えた。
	令和元年5月～ 令和元年8月	近年保育の現場では保護者へ子どもの活動を伝える方法としてドキュメンテーションによる手法を用いている。その事例を学生に紹介し、その後実践することでドキュメンテーションの手法を学んだ。具体的に

		は、5歳児が紙コップパペットで人形劇をするプロセスを保護者に伝えるという設定で、実際に学生が紙コップパペット人形を作成し人形劇を行いその様子を写真に撮りwordに貼り付けた。保護者の理解を深めるため説明文を加えるというものである。園では教育も意図し、保育を行っていることを保護者に発信することの必要性を学生は学ぶことができた。
2. 作成した教科書、教材 保育・教職実践演習 ーわたしを見つめ、求められる保育者になるためにー 子どもの心に届く言葉かけー保育の内容とその方法ー 教育・保育方法～実践のための理論と実際～	平成29年10月 平成29年12月 平成30年3月	「第1章2-2 保育原理」を担当し、保育するということ、子ども理解と保育、保育の制度と現状、これからの課題等について執筆をした。(編著:寺田恭子・榊原志保・高橋一夫、執筆者:藤原牧子他)(7-9頁) 0歳児から2歳児までの子どもを対象とし、園生活の様々な場面で、保育者が子どもに話しかける言葉の実際について執筆した。子どもの言葉の発達について理論も記載しつつ、学生や新任保育者が子どもを受容し応答的な言葉かけが実践できるよう事例を多く載せた。また、写真を多く載せることで、より保育場面を捉えられるように配慮した。(乳児編を担当) 第3章1節は、子どもの発達と集団生活によって培われる子どもの社会性について執筆した。第2章第1節は、保育所、幼稚園、認定こども園での保育形態と保育環境として構成される「コーナー遊び」について事例をもとに具体的に保育環境の重要性を述べた。第8章3節は、乳幼児教育方法として、ドキュメンテーションの手法を紹介した。保育者の資質として、子ども観察、記録、それをまとめ他者に伝える力量を養うことの必要性を説いた。(編著:宮下恭子他、執筆者:藤原牧子他)(38-40頁、54-57頁、152頁)
3. 教育上の能力に関する大学等の評価 大阪成蹊短期大学	平成29年7月	授業評価アンケート賞「保育方法論」を受賞
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 高大連携授業	平成28年6月 ～令和2年3月	大阪府内の公立及び私立高校1・2年生を対象に、テーマ「赤ちゃん人形を使って乳児理解を深める」、「子どもがイメージをふくらます絵本の読み聞かせ方」、「保育という仕事の楽しさとやりがい」などで実施した。また、高校3年生を対象に、地域の保育所で実習をするための実習事前授業を実施した。さらに「保育という仕事の楽しさと実践」、「保育者の仕事ー子どもと一緒に遊ぶ意味を知るー」

大阪成蹊大学・短期大学附属幼稚園 保育研究会	平成 29 年～ 令和 2 年 3 月	というテーマで授業をおこない、保育職への具体的な理解を促した。 平成 29 年度より大阪成蹊大学・短期大学附属幼稚園の公開保育や園内研修にアドバイザーとして参加してきた。3 歳児を対象に幼児理解に基づく環境構成のあり方を教諭と検討してきた。また、幼児のけんかやつまずきの事例から、幼児の育ちの背景や幼児と保護者の関係に視点を向け要因を探り、理論を基に幼児への関わり方について研修を重ねてきた。教諭の保育実践に共感しつつ教諭の気付いていない幼児理解について教示してきた。
5. その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許 保育士資格 幼稚園教諭 2 種免許 幼稚園教諭 1 種免許 秘書検定 1 級	昭和 53 年 10 月 昭和 60 年 3 月 平成 27 年 3 月 平成 20 年 11 月	登録番号兵庫県－049246 大阪府教育委員会昭 59 幼 2 普 4479 号 兵庫県教育委員会平二六幼一種第 1540 号 秘 86 第 00700-130190 号
2. 特許等		特記事項なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 東条保育園にて実習生を担当 豊中市健康福祉サービス苦情調整委員会 兵庫県保育士等キャリアアップ研修 全国保育士養成協議会 2019 年度セミナー近畿ブロック運営組織委員会	昭和 61 年～62 年 平成 29 年 4 月～令和元年 5 月 平成 30 年 8 月 令和元年 8 月 平成 30 年 4 月～令和元年 8 月	短期大学から受け入れた保育実習生に対する指導をおこなった。 豊中市健康福祉サービス苦情調整委員会の委員を務めた。 保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）の講師を務めた。対象は、養父市、豊岡市内の公立及び私立保育所の保育士等。 2019 年度全国保育士養成セミナーの実行委員を務めた。
4. その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 保育・教職実践演習 －わたしを見つめ、求められる保育者になるために－	共著	平成 29 年 10 月	ミネルヴァ書房	「第 1 章 2－2 保育原理」を担当し、保育するということ、子ども理解と保育、保育の制度と現状、これからの課題等について執筆をした。(編著：寺田恭子・榊原志保・高橋一夫、執筆者：藤原牧子他) (7-9 頁)
2 子どもの心に届く言葉かけ－保育の内容とその方法－	共著	平成 29 年 12 月	ミネルヴァ書房	0 歳児から 2 歳児までの子どもを対象とし、園生活の様々な場面で、保育者が子どもに話しかける言葉の実際について執筆した。子どもの言葉の発達について理論も記載しつつ、学生や新任保育者が子どもを受容し応答的な言葉かけが実践できるよう事例を多く載せた。また、写真を多く載せることで、より保育場面を捉えられるように配慮した。(乳児編を担当)
3 教育・保育方法～実践のための理論と実際～ ：	共著	平成 30 年 3 月	(株) 大学図書出版	第 3 章 1 節は、子どもの発達と集団生活によって培われる子どもの社会性について執筆した。第 2 章第 1 節は、保育所、幼稚園、認定こども園での保育形態と保育環境として構成される「コーナー遊び」について事例をもとに具体的に保育環境の重要性を述べた。第 8 章 3 節は、乳幼児教育方法として、ドキュメンテーションの手法を紹介した。保育者の資質として、子ども観察、記録、それをまとめ他者に伝える力量を養うことの必要性を説いた。(編著：宮下恭子他、執筆者：藤原牧子他) (38-40 頁、54-57 頁、152 頁)

<p>(学術論文)</p> <p>1 明石女子師範学校附属幼稚園の保育内容とその方法 —藤堂忠次郎・及川平治の幼児教育思想と実践を事例として—</p>	<p>単著</p>	<p>平成30年2月</p>	<p>大阪成蹊教職研究創刊号</p>	<p>本研究は、幼稚園教育の柱である幼児主体の保育や遊びを通しての総合的な指導、幼稚園教育における幼児理解、小学校との接続、保育カリキュラムについて再考し保育実践を省察する手がかりを得ることである。そのために、明石女子師範学校校長藤堂忠次郎、主事及川平治の幼児教育思想並びに実践を紐解き、附属幼稚園の幼児教育を一つのあり方と捉え、附属幼稚園の目指す幼稚園教育とは何かを検討した。(104-114頁)</p>
<p>2 明治・大正期の幼稚園教育についての一考察 —神戸幼稚園の事例から—</p>	<p>単著</p>	<p>平成30年3月</p>	<p>大阪成蹊短期大学研究紀要第15号</p>	<p>本研究は、明治・大正期に独自の手法で保育を展開した神戸幼稚園（現兵庫県神戸市）に着目し、保育者が何を拠り所に幼児を育てていったのかを考察し、その手がかりを得ることを目的とした。その結果、初めて触れる教育心理学やエミールを学ぶことによって、幼児の研究をする必要性を感じ実践したことがわかった。保育者は、幼児の行動を観察・記録・分析し、科学的な視点から幼児を理解することで、幼児理解とその受容の幅が広がり、新しい保育の展開が可能であることが示唆された。(145-150頁)</p>
<p>3 兵庫県における明治・大正期の保母養成についての一考察</p> <p>：</p>	<p>単著</p>	<p>平成30年3月</p>	<p>武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床人間関係論研究</p>	<p>保育者として子どもの保育を行う時、専門知識や技術はもちろんのこと、子どもの見本となる人である保育者の養成を検討するため、明治期の保母養成に着目し歴史的考察を試みた。その結果、子どもは保育者と生活を共にし、その言動を真似るため、保母養成では全人教育をおこなっていたことがわかった。現代の保育者養成においても、専門知識と技術の修得はもちろんのこと、教養と品性</p>

<p>4 明治期における保育事業の歴史的考察 — 間人幼児保育場および善隣幼稚園に着目して—</p>	<p>単著</p>	<p>令和2年3月</p>	<p>大阪成蹊短期大学 研究紀要第17号</p>	<p>を備え自信を持って保育現場に出られるよう教育することの重要性を明確にすることができた。(81-91頁)</p> <p>わが国に教育及び福祉の制度が整っていない明治に、神戸市には多くの幼稚園が創設された。本研究は、間人幼稚園および善隣幼稚園に着目し、幼児の教育・保育の保障と母親への支援について、歴史的考察を通してこれから就学前施設が幼児と母親に支援をしていくための示唆を得ることを目的とした。その結果、幼児への教育・保育と母親への支援を行うには、専門知識に裏付けられた確かな保育者としての力量と慈愛に満ちた人となりが必要であることを指摘することができた。 (11-18頁)</p>
<p>(その他) 1 明治・大正期の幼稚園教育についての一考察 — 神戸幼稚園の事例から—</p>	<p>—</p>	<p>平成29年9月</p>	<p>日本乳幼児教育学会 第27回大会研究発表 論文集</p>	<p>わが国に教育及び福祉の制度が整っていない明治に、神戸市には多くの幼稚園が創設された。本研究は、間人幼稚園および善隣幼稚園に着目し、幼児の教育・保育の保障と母親への支援について、歴史的考察を通してこれから就学前施設が幼児と母親に支援をしていくための示唆を得ることを目的とした。その結果、幼児への教育・保育と母親への支援を行うには、専門知識に裏付けられた確かな保育者としての力量と慈愛に満ちた人となりが必要であることを指摘することができた。 (8-9頁)</p>
<p>2 子育て家庭の困難への早期発見・早期対応</p>	<p>—</p>	<p>令和3年9月</p>	<p>大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点 2021 年度</p>	<p>18歳以下の子どもを持つ子育て世帯の日常生活における困りごとや子育てに関する困</p>

<p>応に関する総合相談拠点の可能と多機関連携</p> <p>3 子育て家庭の困難への早期発見・早期対応に関する総合相談拠点の可能と多機関連携</p> <p>：</p>	<p>—</p>	<p>令和4年3月</p>	<p>第1回合評会</p> <p>大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点 2021 年度第2回合評会</p>	<p>りごと及び地域とのつながりの実態を明らかにするために583 世帯を対象とした質問紙調査を実施した。調査結果の一部を分析し、子育て世帯の抱える課題の一部を報告した。</p> <p>18 歳以下の子どもをもつ子育て家世帯を対象とした調査結果を分析し発表した。子育て世帯は、子育てに関する困りごとに加え、日常生活においても家計や健康、近隣との付き合い、介護等の課題を抱えていることがわかった。母親の子育ての負担感をもたらす要因として、複合的な課題が世帯にあることが考えられることを発表した。</p>
--	----------	---------------	---	---